

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
7552	大正2年	春の部	装幀に天覧思ふ春寒き	春寒	時候
7553	大正2年	春の部	回覧集などでか遅き春寒に	春寒	時候
7554	大正2年	春の部	花鳥画いて小婢に與ふ春寒く	春寒	時候
7557	大正2年	春の部	夜学日の間遠に菜種花となる	菜の花	植物
7562	大正2年	春の部	春雷の杉に五尺の尖りかな	春雷	天文
7563	大正2年	春の部	春雷や根芹掘る水のむら濁	春雷	天文
7565	大正2年	春の部	魂語録に來り臨めり春の風	春風	天文
7566	大正2年	春の部	東風高し大衆旗鼓に法の陣	東風	天文
7567	大正2年	春の部	兵談も海國の事爐塞げり	爐塞	人事
7568	大正2年	春の部	爐塞げば知る山の暗水の明	爐塞	人事
7570	大正2年	春の部	暮遅きためし見む花間に竹外に	遅日	時候
7572	大正2年	春の部	人に知る知らぬあり只春惜む	春惜む	時候
7574	大正2年	春の部	春雨の泥乾き大鳥も飛ぶ	春雨	天文
7575	大正2年	春の部	春雨帰庵茸作る術を見て	春雨	天文
7576	大正2年	春の部	恩に狎るゝ下部あり春雨の泥	春雨	天文
7577	大正2年	春の部	隣畑に籬取り去りぬ春の雨	春雨	天文
7578	大正2年	春の部	春雨霏々社中帰省の一人飲む	春雨	天文
7579	大正2年	春の部	鋏鍛冶の今日も打たずよ春の雨	春雨	天文
7581	大正2年	春の部	燕來しと見て遠眺を再びす	燕	動物
7583	大正2年	春の部	何に吹く貝の音つやぞ風光る	風光る	天文
7584	大正2年	春の部	陽炎に何語りけむ唇ぞ	陽炎	天文
7585	大正2年	春の部	水に棲む物皆に水温みけり	水温む	地理
7586	大正2年	春の部	暖に天地生々の心あり	暖	時候
7587	大正2年	春の部	耳目具して蟄虫の出づ霞哉	霞	天文
7588	大正2年	春の部	日治し片栗の葉に花に葉に	片栗の花	植物
7589	大正2年	春の部	槻若葉郷先生を傳す誰ぞ	若葉	植物
7590	大正2年	春の部	高津島も這ふ虫も秋を知れとこそ	秋	時候
7591	大正2年	春の部	露輕し籬に傍うて虫の飛ぶ	露	天文
7592	大正2年	春の部	末枯や里に歸れば古き唄	末枯	植物
7593	大正2年	春の部	落日や凧の跡の土じめり	凧	天文
7690	大正3年	春の部	雛衣とならましを雛近きもの	雛祭	人事
7692	大正3年	春の部	君をほぐ季無からめや啓蟄の頃	啓蟄	時候
7694	大正3年	春の部	地の下に物あり雪の上に耀きぬ	雪	天文
7700	大正3年	春の部	顔に淡雪今ふりし壁土思ふ	淡雪	天文
7701	大正3年	春の部	ごうと鳴る風に非ず冴返る空	冴返	時候
7702	大正3年	春の部	凍霧透きて火赤く烟三ところ	凍霧	天文
7703	大正3年	春の部	地に布ける淡雪亀裂さながらに	淡雪	天文
7704	大正3年	春の部	又震るかに東風吹く雲と木の末と	東風	天文
7705	大正3年	春の部	崖崩れ掘る鋏蔓と残雪に	残雪	地理
7706	大正3年	春の部	大地裂けたり露のとう活々と	露の臺	植物
7707	大正3年	春の部	陽炎に包まれて老と幼と居り	陽炎	天文
7708	大正3年	春の部	假橋に蹊作す春の水とゞろ	春の水	地理
7709	大正3年	春の部	萌えがてに死ぬる草黧の沙湧いて	草萌	植物
7710	大正3年	春の部	着膨レ悔ゆ春川渡る鹿島立	春の川	地理
7711	大正3年	春の部	家に帰りて雀の巢屑又掃きぬ	雀の巢	動物
7712	大正3年	春の部	帆にあまる風や木芽張る岸高を	木の芽	植物
7714	大正3年	春の部	雨に冷ゆる人々の顔花暗し	花	植物
7715	大正3年	春の部	悲しき事を教へられつ草摘む子	摘草	人事

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
7716	大正3年	春の部	牡丹彫る鑿やゝ鈍り春埃	春塵	天文
7717	大正3年	春の部	土膨るゝと見て畑打つ力かな	畑打ち	人事
7718	大正3年	春の部	一ツ來る春の蚊夜雨只土の知る	春の蚊	動物
7720	大正3年	春の部	神わざの鳥の巢毀つこと勿れ	鳥の巢	動物
7721	大正3年	春の部	鳥已に巢へりかほど草萌えし	鳥の巢	動物
7722	大正3年	春の部	脈々の暖かさ巢鳥獨知る	鳥の巢	動物
7723	大正3年	春の部	禿筆に宿墨に春の惜まるゝ	春惜む	時候
7724	大正3年	春の部	善く割るゝ薪にも春を惜む人	春惜む	時候
7725	大正3年	春の部	遂に言はで只管に春を惜む哉	春惜む	時候
7726	大正3年	春の部	春惜む唱酬秘むとなき夜半に	春惜む	時候
7727	大正3年	春の部	鳥の名を知らずして徒に春惜む	春惜む	時候
7729	大正3年	春の部	乗合の話柄轉ず山つゝじ濃き	躑躅	植物
7765	大正4年	春の部	高東風の旦より良く啼く子とぞ	東風	天文
7766	大正4年	春の部	山に樹大きく春立つ北國ハ	立春	時候
7767	大正4年	春の部	枝も伐るをゆるさぬ杉や凧	凧	人事
7769	大正4年	春の部	踊るべき人誰々を想ひけり	踊	人事
7771	大正4年	春の部	快し春寒けれど日の光	春寒	時候
7773	大正4年	春の部	陽炎の今ぞ木にもゆ草にもゆ	陽炎	天文
7774	大正4年	春の部	この國の地氣動くところ露のとう	露の臺	植物
7776	大正4年	春の部	春天雪舞ひ帰雁咽ぶかな	春の空	天文
7778	大正4年	春の部	東風つゝく三日よ木實植てより	東風	天文
7780	大正4年	春の部	鳥は巢を得たり木魚稀にうつ	鳥の巢	動物
7782	大正4年	春の部	連翹や鳥海の雪目に痛き	連翹	植物
7784	大正4年	春の部	あぢきなし花見の記にも君が事	花見	人事
7788	大正4年	春の部	妙境は木蓮に春の雲舞ハむ	春の雲	天文
7790	大正4年	春の部	鶯や朝茶の烟断ゆる時	鶯	動物
7877	大正5年	春の部	立春大吉の中の枯木かな	立春	時候
7878	大正5年	春の部	春寒の土踏みて在り讀書人	春寒	時候
7879	大正5年	春の部	春寒に一人殖ゑたる針子哉	春寒	時候
7880	大正5年	春の部	大凍の中に庭柳春めきぬ	春めく	時候
7881	大正5年	春の部	夕凍に瀨鳴り迫るが如く覚ゆ	凍返る	地理
7882	大正5年	春の部	雪解遅く國中を山の鎮めかな	雪解	地理
7883	大正5年	春の部	兒等叫ぶ一しきり雪解の館の下	雪解	地理
7884	大正5年	春の部	寒ん明けの雪垣をもる日ざしかな	餘寒	時候
7885	大正5年	春の部	伐木丁々たり東風渡る山	東風	天文
7886	大正5年	春の部	北人や二月佳節の顔白し	二月	時候
7887	大正5年	春の部	佳節の氣象地に青き露の臺	露の臺	植物
7888	大正5年	春の部	佳節遊ぶ青年どもや春寒を	春寒	時候
7889	大正5年	春の部	仆れ樹の生き / \ とあり氷解く	氷解	地理
7890	大正5年	春の部	社木のみ伐残されつ春吹雪	春吹雪	天文
7891	大正5年	春の部	一方の青天濃きに春の雪	春雪	天文
7892	大正5年	春の部	臼木にと切放す木口東風過る	東風	天文
7893	大正5年	春の部	上國の梅信は是風邪の神	梅	植物
7894	大正5年	春の部	火燃ゆ活々と凍霧に住む人等	凍霧	天文
7895	大正5年	春の部	兒好くて凍霧の中來る女かな	凍霧	天文
7896	大正5年	春の部	凍霧晴れて日は南なる人の顔	凍霧	天文
7897	大正5年	春の部	氷解くる此池の魚数知れず	氷解	地理
7898	大正5年	春の部	日の雪解夜の流レとなりにけり	雪解	地理

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
7899	大正5年	春の部	雪解踏來る朧が妻子を見迎へぬ	雪解	地理
7900	大正5年	春の部	啓蟄の日の正午かな雪間水	啓蟄	時候
7901	大正5年	春の部	山迢かにして東風吹くこと長し	東風	天文
7903	大正5年	春の部	千竿の竹の影舞ふ朧月	朧月	天文
7904	大正5年	春の部	山峻しく水急に涅槃會すぎぬ	涅槃會	人事
7905	大正5年	春の部	風反りの樹や春淺き流レ雲	春淺し	時候
7906	大正5年	春の部	學校の卒業式や春の雪	春雪	天文
7907	大正5年	春の部	路砂利の幾度春の雪に日に	春雪	天文
7908	大正5年	春の部	卒業の茶話會や春淺き雨	春淺し	時候
7910	大正5年	春の部	柳已に青し汝が帽影に	柳	植物
7912	大正5年	春の部	人々の拳陽炎もゆるかな	陽炎	天文
7913	大正5年	春の部	山少し焼くるに昼餉食ひ居たり	野山焼	人事
7914	大正5年	春の部	古葉くゞり旧根に及ぶ春の水	春の水	地理
7915	大正5年	春の部	山下行く我に春山の女唄ふ	春の山	地理
7916	大正5年	春の部	岸辺樹々の枝間朗らに春の水	春の水	地理
7917	大正5年	春の部	絲遊や夜雨に浸りし種俵	陽炎	天文
7918	大正5年	春の部	春一樹二樹に芥焼くけふり	春	時候
7919	大正5年	春の部	村文庫蛙鳴く田の邊り也	蛙	動物
7920	大正5年	春の部	草萌ゆる頃又動く讀書慾	草萌	植物
7921	大正5年	春の部	草もゆる見て我草鞋足すゝむ	草萌	植物
7922	大正5年	春の部	鶯や止まって潭となるところ	鶯	動物
7923	大正5年	春の部	道に一人端山鶯きゝにけり	鶯	動物
7924	大正5年	春の部	書樓近く巢作る雀恣マ	雀の巢	動物
7925	大正5年	春の部	矢根石拾ふ頭上を嘯りぬ	嘯	動物
7926	大正5年	春の部	鶯や首を回らせば天空し	鶯	動物
7927	大正5年	春の部	我と共にこの一國の霞みけり	霞	天文
7928	大正5年	春の部	山は山河は河なる霞かな	霞	天文
7929	大正5年	春の部	地にもゆる我も / \ と土筆	土筆	植物
7930	大正5年	春の部	耕人の目に鳥海の雪かすむ	霞	天文
7931	大正5年	春の部	堆きままでに落花を掃きあつむ	落花	植物
7932	大正5年	春の部	巢籠の雀を襲ふ風落花	雀の巢	動物
7933	大正5年	春の部	納屋の前花散りつもる炭俵	落花	植物
7934	大正5年	春の部	風雨叩く櫻を望むがらす窓	櫻	植物
7935	大正5年	春の部	蕨伸る日照りに鳴るや蕨枯葉	蕨	植物
7936	大正5年	春の部	折るとしもなき早蕨の把に盈つる	蕨	植物
7937	大正5年	春の部	野路一人雉子鳴く方を後ろにす	雉子	動物
7938	大正5年	春の部	樹に草に行春の雨斜なる	行春	時候
7939	大正5年	春の部	神鳴りて天氣変りぬ梨の花	梨の花	植物
7940	大正5年	春の部	隣隔つ生垣深く春暮る	暮春	時候
7941	大正5年	春の部	雀子と大根の花と風雨かな	雑	雑
7942	大正5年	春の部	蕨狩の女に守る古渡シ	蕨狩	人事
8079	大正6年	春の部	柳の芽露の臺我と相知りぬ	雑	雑
8080	大正6年	春の部	東風の里雪穴日々に毀たるゝ	東風	天文
8081	大正6年	春の部	氷解くる池の面の風を迎へけり	氷解	地理
8085	大正6年	春の部	大方の柳芽ぐむに涙かな	柳の芽	植物
8086	大正6年	春の部	翔りゆく白鳥二ツ春の水	春の水	地理
8087	大正6年	春の部	我が立つを巢の營みの雀飛ぶ	雀の巢	動物
8088	大正6年	春の部	禽一時柴刈人に嘯りぬ	嘯	動物

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
8089	大正6年	春の部	草萌時渡シの舩の遅き待つ	草萌	植物
8090	大正6年	春の部	澤水の早さに堪へて露の臺	露の臺	植物
8091	大正6年	春の部	柳垂るゝ處我が立つ星の春	春の星	天文
8092	大正6年	春の部	提灯にからびたり春の泥一片	春泥	地理
8093	大正6年	春の部	春の泥乾くや燕とぶはじめ	春泥	地理
8094	大正6年	春の部	庭の松に來鳴く鶯書に親し	鶯	動物
8095	大正6年	春の部	當面の山焼くる見て書を釋てつ	野山焼	人事
8096	大正6年	春の部	大衆ハ知らず斷崖の花辛夷	辛夷	植物
8097	大正6年	春の部	木の芽吹いて禽もろ / \ が口を張る	木の芽	植物
8099	大正6年	春の部	山門の一偈木芽のもろ / \ に	木の芽	植物
8101	大正6年	春の部	鶯の耳に徹して痕もなし	鶯	動物
8103	大正6年	春の部	雑草に山吹白し垣日向	山吹	植物
8232	大正7年	春の部	子等の顔に啓蟄近き日の色よ	啓蟄	時候
8233	大正7年	春の部	この雨に雪減る上を歩みけり	雪解	地理
8234	大正7年	春の部	栗枯木雪解の烟立つ中に	雪解	地理
8235	大正7年	春の部	腹案を筆す物皆冴返る	冴返	時候
8236	大正7年	春の部	雪の底笈溢るゝ雪解哉	雪解	地理
8237	大正7年	春の部	太古史を讀む屋外の雪解哉	雪解	地理
8238	大正7年	春の部	山辺雪解を見て日毎往還す	雪解	地理
8240	大正7年	春の部	大樹の下兒孫額づくや露のとう	露の臺	植物
8241	大正7年	春の部	まれ人と夜座寛ぐや猫の戀	猫の戀	動物
8242	大正7年	春の部	鳥已に蹠を印す雪間草	雪間草	植物
8243	大正7年	春の部	殘雪の人脅かすゆゝしさよ	殘雪	地理
8244	大正7年	春の部	野蒜掘戀猫の宿へ戻る也	野蒜	植物
8245	大正7年	春の部	野蒜もゆる彼方伐木の群衆かな	野蒜	植物
8246	大正7年	春の部	春風や雪垣解けバ山見ゆる	春風	天文
8247	大正7年	春の部	雪垣の跡や柳の緑匂ふ	柳	植物
8248	大正7年	春の部	百千鳥處を得たり巨樹細柯	百千鳥	動物
8249	大正7年	春の部	春風に猶冷ゆらんぞ雲雀の巢	雲雀の巢	動物
8251	大正7年	春の部	花鳥の魂こぞる朧かな	朧	天文
8253	大正7年	春の部	耳近に鳴く鶯や山の鼻	鶯	動物
8255	大正7年	春の部	雛の日や先祖の話一くさり	雛祭	人事
8257	大正7年	春の部	畑の土膨れつくして春のゆく	行春	時候
8258	大正7年	春の部	路傍や末黒うすれて春の行く	行春	時候
8259	大正7年	春の部	行春や嬌々として鳥の飛ぶ	行春	時候
8260	大正7年	春の部	春を惜む心友二人夜學かな	春惜む	時候
8261	大正7年	春の部	行春の鳥の啄む水泡かな	行春	時候
8262	大正7年	春の部	醉酣に暴風雨中春惜む	春惜む	時候
8263	大正7年	春の部	土くれも我が手も硬し暮るゝ春	暮春	時候
8264	大正7年	春の部	平準の水に岸辺の春くるゝ	暮春	時候
8265	大正7年	春の部	行春や徒に伸びたる藥草	行春	時候
8266	大正7年	春の部	水あれば葉廣水草春老いし	行春	時候
8267	大正7年	春の部	この花に鮮魚の價貴けれ	花	植物
8268	大正7年	春の部	貧しくて年経る家や花大根	大根の花	植物
8269	大正7年	春の部	晝の戸に李の花香漾へり	李の花	植物
8270	大正7年	春の部	籬ともなく朽木横はる春の艸	春の草	植物
8271	大正7年	春の部	少間を摘むべき草のほゝけたり	摘草	人事
8272	大正7年	春の部	蕨五六本椎茸一つ握りつゝ	蕨	植物

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
8419	大正8年	春の部	土につく我足うれし露のとう	露の臺	植物
8420	大正8年	春の部	雪解靄中に枯木と我と哉	雪解	地理
8421	大正8年	春の部	春淺き枯木の苔の美しくしや	春淺し	時候
8422	大正8年	春の部	露のとう苦きに美酒や春淺き	春淺し	時候
8423	大正8年	春の部	啄木鳥を徒に見てすぐ春淺き	春淺し	時候
8424	大正8年	春の部	春淺き土や大樹の根の邊り	春淺し	時候
8425	大正8年	春の部	春淺し水鳥春の水をくゞる	春淺し	時候
8426	大正8年	春の部	一日着て一日掛く春淺き漁簑	春淺し	時候
8427	大正8年	春の部	春淺き庭の主や古椿	春淺し	時候
8428	大正8年	春の部	春淺し鉄砲ひゞく田螺の戸	春淺し	時候
8429	大正8年	春の部	古藻ながらの湖の魚買ふ春淺き	春淺し	時候
8430	大正8年	春の部	春はやも山の黛濃き日哉	早春	時候
8432	大正8年	春の部	もえいづる草に不覺の泪かな	草萌	植物
8433	大正8年	春の部	岡邊行く子等や木芽の競ひふく	木の芽	植物
8434	大正8年	春の部	木芽ふけよ / \ と鳥の諸音哉	木の芽	植物
8435	大正8年	春の部	木芽固し卒業式の人々に	木の芽	植物
8436	大正8年	春の部	木芽垣に師弟別を惜しみけり	木の芽	植物
8437	大正8年	春の部	氏神に不時の詣や木芽もゆ	木の芽	植物
8438	大正8年	春の部	舟上る遅々柳の芽ふくれをり	柳の芽	植物
8439	大正8年	春の部	遅き早き木芽に雪の淡々し	木の芽	植物
8440	大正8年	春の部	樹々の芽のふく音か雨けふる中	木の芽	植物
8441	大正8年	春の部	木芽つめばよべの雨露含みをり	木の芽	植物
8443	大正8年	春の部	命長き椎や梢の百千鳥	百千鳥	動物
8445	大正8年	春の部	朝鮮の桃種植ゑつ此土に	花種蒔く	人事
8446	大正8年	春の部	木芽ふくや冷たくなりし野火の痕	木の芽	植物
8447	大正8年	春の部	犬鈍に鶏輕し桑もえ出でゝ	桑の芽	植物
8449	大正8年	春の部	日遅々たり椿赤きに水流れ	遅日	時候
8451	大正8年	春の部	庭の内外うからやからにはつ燕	燕	動物
8452	大正8年	春の部	墓木より春雨垂るに孫ら子ら	春雨	天文
8454	大正8年	春の部	朝鳥の花に羽たゞく目ざましき	花	植物
8455	大正8年	春の部	笙箏築神格りますや花の雲	花	植物
8456	大正8年	春の部	我家の水や花見の足すゞぐ	花見	人事
8457	大正8年	春の部	蠟燭の花に冷えゆく端居哉	花	植物
8458	大正8年	春の部	花の泥を厭ひ水ナ上遠くゆく	花	植物
8459	大正8年	春の部	此山を出でじと花に又思ふ	花	植物
8460	大正8年	春の部	大雨の中獨遊べり花の魂	花	植物
8462	大正8年	春の部	陽炎のまに / \ 遊ぶ魂を思ふ	陽炎	天文
8463	大正8年	春の部	花寒き心書樓にこもりけり	花	植物
8464	大正8年	春の部	田打ども我庭の花見て過ぐる	花	植物
8466	大正8年	春の部	花に來て蛙の客となりけり	花	植物
8468	大正8年	春の部	皆人の春惜む中の蛙哉	春惜む	時候
8637	大正9年	春の部	杉村や神のうがらのうらゝかに	麗	時候
8638	大正9年	春の部	神々に繩墨句へ家の春	初春	時候
8639	大正9年	春の部	玉の如く春寒凝りて句録の句	春寒	時候
8640	大正9年	春の部	山際に片よりて梅の徑かな	梅	植物
8641	大正9年	春の部	梅一木二木や風邪もなき小村	梅	植物
8642	大正9年	春の部	梅早し何に驅け去る軍人	梅	植物
8643	大正9年	春の部	梅の老樹に近寄らで過ぐ里人よ	梅	植物

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
8644	大正9年	春の部	梅に月誰ぞ宿禽を驚かす	梅	植物
8645	大正9年	春の部	梅に管せず潭心の月に立つ	梅	植物
8646	大正9年	春の部	梅寒く苦吟曉に達しけり	梅	植物
8647	大正9年	春の部	瓶梅の蕾や苦吟夜を徹す	梅	植物
8648	大正9年	春の部	風邪入らぬ里の往來や梅の花	梅	植物
8649	大正9年	春の部	梅を遠く去るや柳を縮めべく	梅柳	植物
8650	大正9年	春の部	曉を啼くや梅の寒きに水鳥も	梅	植物
8651	大正9年	春の部	水鳥の孤獨となりぬ梅の花	梅	植物
8652	大正9年	春の部	古舊挨拶す梅の戸柳の門	梅柳	植物
8653	大正9年	春の部	桃夭々雛の主人のねびまさり	雛祭	人事
8654	大正9年	春の部	古雛にあるじまうけも無かりけり	雛祭	人事
8655	大正9年	春の部	かりそめの雛にかざやく灯かな	雛祭	人事
8656	大正9年	春の部	雛まつる大家の庭の闇深し	雛祭	人事
8657	大正9年	春の部	夜の雨襲ひ來にけり雛が宿	雛祭	人事
8658	大正9年	春の部	雛の間に狗吠鶏鳴聞えけり	雛祭	人事
8659	大正9年	春の部	料紙硯文したゝむる雛の前	雛祭	人事
8660	大正9年	春の部	雛を見て帰るさ眉のよな月が	雛祭	人事
8661	大正9年	春の部	門をなす柳に出入る雛の人	雛祭	人事
8662	大正9年	春の部	雛過ぎて更に活けたる桃白し	桃	植物
8664	大正9年	春の部	ゆく春の取つく物も無かりけり	行春	時候
8665	大正9年	春の部	誰と共に春を惜まん筆硯	春惜む	時候
8666	大正9年	春の部	ゆく春を大風吹いて籠りゐる	行春	時候
8771	大正10年	春の部	野路稀にゆく人や梅に管らず	梅	植物
8772	大正10年	春の部	自から起ちて探梅の糧作る	探梅	人事
8773	大正10年	春の部	梅さくやいかに傳へて古瓢	梅	植物
8774	大正10年	春の部	我をさけて苔はむ鳥や梅の花	梅	植物
8775	大正10年	春の部	梅寒うして暦日を過たず	梅	植物
8776	大正10年	春の部	梅の曙既に人ある麦島	梅	植物
8777	大正10年	春の部	梅寒し火箭の稽古の戻り人	梅	植物
8778	大正10年	春の部	人遠し梅蕾堅く水急に	梅	植物
8779	大正10年	春の部	梅柳日の景移る一郭	梅柳	植物
8780	大正10年	春の部	梅ちる軒海苔干す戸風平かに	梅	植物
8781	大正10年	春の部	木芽吹くや朝山越ゆるかしま立	木の芽	植物
8782	大正10年	春の部	顔回ハ學を好みり木芽和	木芽和	人事
8783	大正10年	春の部	藪木の芽赤くほぐれつ晝蛙	木の芽	植物
8784	大正10年	春の部	涅槃會大雨境内の木芽寒ム	木の芽	植物
8785	大正10年	春の部	ちよと摘みて / \ 木芽つみ憂かり	木の芽	植物
8786	大正10年	春の部	漣や橋の袂の木芽摘	木の芽	植物
8787	大正10年	春の部	木芽摘風に吹かれて唄ひをり	木の芽	植物
8788	大正10年	春の部	木芽照るや馬を走らす少年輩	木の芽	植物
8789	大正10年	春の部	谷水の日に減りて木芽ほうけたり	木の芽	植物
8790	大正10年	春の部	諸木の芽色づく見てや雁急ぐ	木の芽	植物
8791	大正10年	春の部	水に照る木芽や蘆はかれ / \ て	木の芽	植物
8792	大正10年	春の部	谷川の濁うすらぎて曉の花	花	植物
8793	大正10年	春の部	岩魚釣る人と相識らず山櫻	山櫻	植物
8794	大正10年	春の部	櫻狩劔客道を譲り去る	花見	人事
8795	大正10年	春の部	花ちるや手づから藏む古硯	落花	植物
8796	大正10年	春の部	燭を採れば花の筵の人空し	花見	人事

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
8797	大正10年	春の部	舊道や今を盛りの山櫻	山櫻	植物
8798	大正10年	春の部	旅人に花ふる里の荒にけり	花	植物
8799	大正10年	春の部	ちる花に斯松栽ゑし人を想ふ	落花	植物
8800	大正10年	春の部	花人を送りて蛙鳴出しぬ	花	植物
8801	大正10年	春の部	花に急ぐ人の絶間の陽炎よ	花	植物
8802	大正10年	春の部	花漬けて故人至るを待たん哉	花	植物
8804	大正10年	春の部	行春や足つまだつる山一ツ	行春	時候
8929	大正11年	春の部	彼岸近し人の子の目に杖なんど	彼岸	人事
8931	大正11年	春の部	紙鳶繪かく弟を見て物ははず	凧	人事
8932	大正11年	春の部	紙鳶の句に忍び雛の句に泣きぬ	凧	人事
8933	大正11年	春の部	紙鳶も揚り雪崩越え来し安堵哉	凧	人事
8934	大正11年	春の部	雪崩越えし安堵を揚る紙鳶	凧	人事
8935	大正11年	春の部	暮一人尚凧揚げむ風待ちぬ	凧	人事
8936	大正11年	春の部	繪凧持歸る枯木の奥の家	凧	人事
8937	大正11年	春の部	大鳥の抜羽を茲に草もゆる	草蒨	植物
8938	大正11年	春の部	樹の枝のかけ太やかに土ぬくき	暖	時候
8939	大正11年	春の部	鶯や例の端山に日の照りて	鶯	動物
8940	大正11年	春の部	むら杉を繞りて春の水光る	春の水	地理
8941	大正11年	春の部	衆禽は邇く鶯遐か也	鶯	動物
8942	大正11年	春の部	羽毛異なりて一樹に轉るよ	轉	動物
8943	大正11年	春の部	鳥下りて春の地息に浸りけり	春の土	地理
8944	大正11年	春の部	愁ひて書樓に在れば柳青し	柳	植物
8945	大正11年	春の部	山川の淵瀬久しき櫻哉	櫻	植物
8946	大正11年	春の部	春の夜の人を玉なる夢路哉	春夜	時候
8947	大正11年	春の部	時ありて巨人の影や蛙の子	蝌蚪	動物
8948	大正11年	春の部	朝ぼらけ大河隔てゝ雉子の聲	雉子	動物
8949	大正11年	春の部	木芽より雨の餘りて枯芝へ	木の芽	植物
8950	大正11年	春の部	したゝかに雨に打たるゝ堇哉	堇	植物
8951	大正11年	春の部	朝晴に袴干しけり土筆達	土筆	植物
8952	大正11年	春の部	碑の苔を掃はで久し春の雨	春雨	天文
8953	大正11年	春の部	朝霽や木芽潤ほし足らぬ雨	木の芽	植物
8954	大正11年	春の部	旦に出て夕に歸れば櫻哉	櫻	植物
8955	大正11年	春の部	陽炎に野をやく子等のかけめぐる	陽炎	天文
8956	大正11年	春の部	二三十の目高に田螺一ツかな	雑	雑
8957	大正11年	春の部	春雨や茸の事に立咄シ	春雨	天文
8959	大正11年	春の部	僧と地を指點す一鳥轉るに	轉	動物
8960	大正11年	春の部	この垣に五加木つみけむ昔かな	五加木	植物
8961	大正11年	春の部	花鳥や白骨うめん此ところ	花	植物
8962	大正11年	春の部	ねもごろに繕はしめつ五加木垣	五加木	植物
8963	大正11年	春の部	城の如く花の大樹の聳えけり	花	植物
8964	大正11年	春の部	春雨に潤ひ足りし大地哉	春雨	天文
8965	大正11年	春の部	春雨にひたぬれて巢の營か	春雨	天文
8966	大正11年	春の部	愁見る碑の舊苔や春の雨	春雨	天文
8967	大正11年	春の部	春の雨烟るが中の日は南	春雨	天文
8968	大正11年	春の部	春雨のまだきに晴れて日遍し	春雨	天文
8969	大正11年	春の部	春雨の夢を掠めて蚊の去りし	春雨	天文
8970	大正11年	春の部	春の雨晴るゝに近し日の朧	春雨	天文
8971	大正11年	春の部	はやうもれゆく骨壺や春の雨	春雨	天文

大正2年～大正11年

春の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
8972	大正11年	春の部	白骨を埋むるに雨の落花哉	落花	植物
8973	大正11年	春の部	春雨や見るまにぬれし土饅頭	春雨	天文
8974	大正11年	春の部	春雨の自から垂る墓辺の樹	春雨	天文
8976	大正11年	春の部	一鍬の土にかげろふ畏さよ	陽炎	天文
8977	大正11年	春の部	さゝやかに虫巢ふ草芳しく	草芳し	植物
8978	大正11年	春の部	草芳しく女かほよし流レ水	草芳し	植物
8980	大正11年	春の部	悲しくも餘花の白さを眼睛に	餘花	植物
8982	大正11年	春の部	湖の魚飛を心に風光る	風光る	天文
8983	大正11年	春の部	行春の一日を聳ゆ雲の峰	行春	時候
8984	大正11年	春の部	牡丹さげて群衆にふれさせじとす	牡丹	植物
8985	大正11年	春の部	湖辺近くゆく / \ 春の草老いぬ	春の草	植物